

第10期（令和6年度）

総会議案書（案）

日時 令和7年2月9日（日）
午後13時30分

場所 竹町公民館

農事組合法人 竹町農業生産組合

第10期 総会議案書

次第

1. 開会の辞
2. 代表理事挨拶
3. 総会成立宣言
4. 議長選出
5. 議事録署名人指名
6. 書記指名
7. 議事
 - 議・第1号 第10期事業年度事業報告（案）について
 - 議・第2号 第10期事業年度（令和6年度）決算・剰余金処分（案）について
 - 議・第3号 竹町農業生産組合解散（案）について
8. その他
9. 閉会の辞

議・第1号 第10期事業年度（令和6年度）事業報告について

当組合は令和元年度に、新たな役員体制を基に、法人組織をいかに安定的に運営し、健全経営が保てるかを経営方針として事業を推進して参りました。令和6年度はその6年目に当たり、また法人としては役員任期4期目の初年度(1年目)として迎えた年度でした。

一昨年5月に新型コロナウイルスも5類感染症に移行し、昨年の2月4日には4年振りに対面による通常総会を開催させていただいたところです。

昨年の世界を取り巻く環境は、長期化するウクライナへのロシア侵攻、イスラエルによるガザ攻撃、懸念される中国による台湾への武力行使、北朝鮮のミサイル開発と憂慮に堪えない事態が続いております。一方、国内では1月に能登半島地震が発生し、9月にはこれに追い討ちをかけるように能登半島豪雨が発生、未だに災害からの復旧がままならない状態となっています。

経済面では、日米の金利差により一時は37年振りとまで言われるほど円安が進み、あらゆる物資が高騰しております。物価の高騰は我々農業者の経営環境をも直撃、肥料・農薬を始め、種子や燃料等の農業資材が異常な高値となっております。これに加え2024年問題で物流コストまで上がることとなり、昨年は非常に苦しい法人経営を余儀なくされました。

また、地球温暖化による異常気象により、ここ数年来主要作物である米、大豆等の生育に大きな影響を受け、収穫量が激減しております。(詳細については作物別に報告)

ただ、昨年の米価は8月頃からスーパーや米屋で米がないという状況がマスコミで取り上げられ、市場価格は久し振りに高値を維持している状況です。これに伴い竹町での玄米販売価格も30kg 当り2千円の値上げとさせていただき、米作に関しては赤字の一昨年より若干良い方向に進みました。しかしながら、農業経営は依然として厳しい状況に変わりはありません。

法人の経営環境は、年度によって浮き沈みはありますが、最大の経営課題は担い手不足です。竹町生産組合がこのまま継続出来るかどうか、何回か役員で議論させていただきましたが、耕作者の高齢化と担い手がいないということにより、非常に残念ではありますが解散せざるを得ないという結論に達しました。解散の時期につきましては、国から支援を受けて購入した大型農機の原因償却が完了する本年4月以降ということになります。(本年4月以降に解散の場合、国庫への補助金返還の義務はありません。)

具体的な解散スケジュールにつきましては後ほど説明致しますが、このスケジュールに従って法人の清算手続きを進めて行きたいと考えております。これにつきましては、第3号議案にて議論いただきます。

今後の耕作につきましては、麦は令和7年度(昨年11月種まき)から認定農家の荒川雅男さんに、今年の米作は荒川雅男さんの他に個人耕作者として奥田徹さん、川橋幸己さん、中川昭三さんに、大豆・そばについては荒川雅男さんにどうされるか検討をいただいているところです。

又、生産組合所有のトラクターやコンバイン等の大型農機は竹町改良組合または農用地利用改善組合に無償譲渡、玄米販売については改良組合が取りまとめを行おうとしております。

法人としては誠に残念な結果となりましたが、高齢化が進み、担い手がいないということは事業を継続する上で如何ともしがたいことであり、ご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。以上、本年度の事業報告とさせていただきます。

第10期（令和6年度）決算概要について（総務部）

1. 令和6年度決算概要と過去の変遷

本年度決算と過去の変遷

（単位：千円）

事業年度		第5期 R1年度	第6期 R2年度	第7期 R3年度	第8期 R4年度	第9期 R5年度	第10期 R6年度
栽培作物	水稲	123.2反	127.6反	35.5反	51.5反	20.3反	32.6反
	小麦	114.1反	108.0反	103.2反	125.2反	157.5反	155.9反
	大豆	63.3反	51.9反	41.6反	47.4反	57.6反	54.9反
	黒豆	8.1反	13.9反	15.5反	19.1反	22.1反	18.2反
	ソバ	36.4反	43.1反	36.3反	43.4反	47.8反	36.9反
経営面積		347.1反	344.5反	232.0反	286.8反	305.3反	298.5反
売上		12,396	14,853	7,114	10,364	7,657	10,523
製造原価・管理費		16,259	17,005	12,187	15,811	15,747	15,104
営業利益		-3,873	-2,588	-5,074	-5,448	-8,091	-6,464
営業外収益 （補助金等）		12,976	15,234	13,660	13,444	17,916	15,305
経常利益		9,101	12,600	8,585	7,996	9,823	8,841
経常利益／反		26	37	37	28	32	51
経営基盤強化準備金		1,500	0	0	0	0	0
利益準備金		750	1250	860	880	1020	880
経営基盤強化準備金 の取り崩し					1,000	500	0
従事分量配当		6,500	10,200	7,400	8,000	9,000	7,800

本年度決算の概要

本年度（第10期）につきましては、前年に比べ増収（一昨年並み）となり営業利益は赤字縮小となりました。但し補助金収入が約260万円減額となり、経常利益は100万円減という結果となっております。

これは主力作物である小麦の収量が減った結果、売上と小麦の数量払い補助金が大きく減額となったことが主な原因です。ただ、本年度は昨年度赤字を余儀なくされた水稲の単価が想定以上に上がり、単品で黒字となったことは明るい兆しで、来年度の米価に期待したいところです。

この結果、本年度は経営基盤強化準備金の取り崩しを行うことなく、決算を纏める事ができました。

2. 作物別の作柄と収支の概要（総務部）

小麦、水稲、ソバの前年度比較（税抜）

単位：千円

年 度	令和5年度			令和6年度		
	小麦	水稲	ソバ	小麦	水稲	ソバ
経営面積	157.5反	20.3反	47.8反	155.9反	32.6反	36.9反
収穫量	64,796kg	7,947kg	2,610kg	47,884kg	13,260kg	3,083kg
収穫量/10a	412kg	6.5俵	54.6kg	307kg	6.8俵	83.6kg
売 上	2,993	1,852	435	2,959	4,496	514
製造原価・管理費	9,181	1,994	658	10,077	2,576	581
営業利益	-6,189	-142	-223	-7,118	1,920	-67
営業外収益：補助金等	12,437	76	620	11,397	40	478
経常利益	6,248	-66	397	4,279	1,960	412
経常利益/10a	39,670円	-3,232円	8,304円	27,447円	60,122円	11,165円
総収入/10a	97,968円	94,835円	22,073円	92,085円	139,141円	26,883円
材料費/10a	17,850円	51,352円	3,532円	24,288円	33,021円	4,506円
材料費/総収入	18.2%	54.1%	16.0%	26.4%	23.7%	16.8%
費用合計/総収入	59.5%	103.4%	62.4%	70.2%	56.8%	58.6%

1) 作物別作柄と収支（総務部）

本年度の作柄は、10a 当たりで見ると小麦は重量で25%の減収、水稲は昨年よりやや増収、ソバは53%増収という結果になりました。各々の作物については

- ◆小麦：10a 当たりの収量減により、数量払い補助金が約100万円減額となったことと、材料費が約98万円アップしたことにより経常利益は約200万円減少となりました。
- ◆水稲：水稲については10a 当りの収量が増えたことと、スーパーから米が消えるという米騒動もあって久し振りに単価が上がり、本年度は想定以上の結果となっております。
- ◆ソバ：播種後のゲリラ豪雨や台風の影響で発芽後に一部の圃場で苗が消滅、蒔き直しをやるなどして、例年より生育が遅れたが、その後の台風の影響がなく順調に成長。収穫量は10a 当たり約84kg と平年を上回る結果となりました。
- ◆大豆・黒豆

令和5年度大豆、黒豆の決算について年間を通して行くと、それぞれの経常利益は大豆が約103万円、黒豆は約118万円となりました。

但し、本年度の大豆類は播種後の発芽状態が悪く、その後の生育状態も芳しくなく、収穫時期には実が入っていないという状態で、大凶作という結果で終わっております。この状況は、竹町だけでなく他の地区でも同様なことが発生しているということです。

大豆・黒豆の精算は3月以降になりますので、本年度の決算には含めませんが、大赤字という結果になりますので、次年度決算で損失計上する予定です。

令和6年度実績

		総合	共通	水稲	小麦	大豆 R5年産	大豆 R6年産	黒豆 R5年産	黒豆 R6年産	ソバ R5年産	ソバ R6年産
経営面積		298.58反		32.64反	155.94反	57.61反	54.89反	22.11反	18.23反	47.78反	36.88反
収穫量（本年度：水稲はくず米除く）		供出米：5,520kg 自家消費米：7,740kg		13,260kg	47,884kg	9179kg	最終耕作面積？	2535kg	-	3,037kg	3,083kg
単位収量				6.77俵/反	307.1kg/反	159.3kg/反		114.7kg/反		70.0kg	83.6kg
収穫量（前年度）				7,947kg	64,796kg	4,460kg		(1591kg)	(kg)	(945kg)	2,610kg
単位収量				(6.52俵/反)	411.6kg/反	(94.0kg/反)		83.3kg/反		(26.0kg/反)	55kg
A	売上	10,523,179円		4,495,978円	2,959,441円	1,068,981円	0円	1,485,029円		0円	513,750円
	売上合計	10,523,179円	0円	4,495,978円	2,959,441円	1,068,981円	0円	1,485,029円	0円	0円	513,750円
ア	①種苗費/諸材料費	1,267,360円		442,662円	388,364円	270,000円		102,584円			63,750円
	②肥料費/農業費	5,614,998円		633,838円	3,398,155円	1,109,418円		371,063円			102,524円
	ア 材料費 計 (①～④)	6,882,358円	0円	1,076,500円	3,786,519円	1,379,418円	0円	473,647円	0円	0円	166,274円
	③確定給与雇備資金	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
	④臨時雇用賃金（農作業標準賃表による）	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
	イ 労務費 計 (③～④)	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
	⑤作業委託費（ドローン航空防除+ソバ刈取料他）	289,205円			農業費で処理						289,205円
	⑥小農具備品費（リースアップコンバイン）	11,940円							11,940円		
	⑦動力燃料費	157,707円	136,072円		9,559円	3,093円			8,983円		
	⑧減価償却費	251,537円	251,537円								
	⑨リース料	0円									
	⑩修繕費	233,440円	28,250円		205,190円						
	⑪租税公課	35,400円	35,400円								
	⑫支払地代	1,903,170円		329,540円	1,573,630円						
	⑬賃借料（組合員農機具使用料：支払額÷1.1）	1,809,692円	-84,165円	649,897円	1,127,687円		0円		0円		116,273円
	⑭外部からの賃借料（農機格納庫、レンタル料等）	505,584円	111,273円		100,500円	293,811円					
	⑭共済掛金（作物別）	123,806円		5,707円	118,099円						
	⑮共済掛金（共通）	72,089円	72,089円								
	⑯水利費（4,950円/反）	942,040円		163,110円	778,930円						
⑰施設利用費（カントリー利用料他）	1,880,687円			1,462,239円	319,851円			79,548円	10,555円	8,494円	
⑱雑費	5,781円	600円		5,181円							
ウ 生産経費 計 (⑤～⑱)	8,222,078円	551,056円	1,148,254円	5,381,015円	616,755円	0円	100,471円	0円	10,555円	413,972円	
B 製造原価合計 (ア～ウ)	15,104,436円	551,056円	2,224,754円	9,167,534円	1,996,173円	0円	574,118円	0円	10,555円	580,246円	
C 売上総利益 (A-B) : 売上総損失	-4,581,257円	-551,056円	2,271,224円	-6,208,093円	-927,192円	0円	1,956,200円	0円	-10,555円	-66,496円	
D	⑲支払手数料（税理士費用）	469,200円	468,900円	300円							
	⑳支払手数料（その他）	3,000円			700円				2,000円		300円
	㉑販売手数料（JA：R3年度より販売費を分離）	1,374,660円		349,560円	908,919円	116,181円					
	㉒租税公課、諸会費	15,480円	15,480円								
	㉓事務用消耗品費	5,271円	5,271円				RJA販売経費				
㉓雑費	14,959円	10,450円	1,500円		3,009円						
D 販売・一般管理費計 (⑲～㉓)	1,882,570円	500,101円	351,360円	909,619円	119,190円	0円	0円	2,000円	0円	300円	
E 費用合計 (B+D)	16,987,006円	1,051,157円	2,576,114円	10,077,153円	2,115,363円	0円	574,118円	2,000円	10,555円	580,546円	
F 営業利益 (A-E) : 営業損失	-6,463,827円	-1,051,157円	1,919,864円	-7,117,712円	-1,046,382円	0円	910,911円	-2,000円	-10,555円	-66,796円	

	総合	共通	水稲	小麦	大豆	大豆	黒豆	黒豆	ソバ	ソバ
					R5年産	R6年産	R5年産	R6年産	R5年産	R6年産
畑作物の直接支払交付金（数量払）	1,969,840円	0円	0円	1,333,250円	344,650円	0円	0円	0円	291,940円	
畑作物の直接支払い交付金（面積払い）2万円/10a	3,854,400円	0円		3,104,000円		272,000円		0円		478,400円
水田活用の直接支払：畑作物産地形成促進 4万円/10a	6,208,000円	0円	0円	6,208,000円		0円	0円	0円		
水田フル活用助成金：大豆2a分	7,000円				7,000円					
団地加算交付金（4870円/10a）	631,200円	0円	0円	631,200円		0円	0円	0円		
二毛作助成金（県）（大豆、黒豆13,460円/10a）	795,324円				574,744円		220,580円			
二毛作助成金（県）（ソバ13,460円/10a）	476,676円								476,676円	
土壌改良（市）（大豆 2,300円/10a）	100,400円				100,400円					
二毛作助成金（市）（大豆、黒豆、ソバ2,000円/10a）	254,400円				114,949円		44,116円		95,335円	
大豆助成	1,000円				1,000円					
麦流通円滑化交付金	20,076円			20,076円						
肥料高騰支援金（国、県）	142,450円			78,750円	39,850円				23,850円	
肥料農業大口予約奨励金（JA）	21,577円			21,577円						
a 雑収入1（補助金）	14,482,343円	0円	0円	11,396,853円	1,182,593円	272,000円	264,696円	0円	887,801円	478,400円
利息	1,135円	1,135円								
出資配当金	1,000円	1,000円								
雑収入	253,554円	213,217円	40,337円							
還付消費税	567,319円	567,319円								
b 雑収入2（利息+地代）	823,008円	782,671円	40,337円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
G 営業外収益 計（a+b）	15,305,351円	782,671円	40,337円	11,396,853円	1,182,593円	272,000円	264,696円	0円	887,801円	478,400円
a 支払利息	358円	358円								
d 雑損失	0円	0円								
H 営業外費用 計（c+d）	358円	358円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
I 経常利益（F+G-H）：営業外損益加算	8,841,166円	-268,844円	1,960,201円	4,279,141円	136,211円	272,000円	1,175,607円	-2,000円	877,246円	411,604円
特別利益（経営基盤強化準備金取り崩し）			0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
特別損失	0円									
役員報酬	0円									
J 税引前当期利益（経常利益+特別損益）	8,841,166円									
法人税、住民税及び事業税（計算式-219円：税理士整合）	257,176円									
K 当期純利益	8,583,990円									
前期繰越利益剰余金	90,319円									
L 当期末処分利益剰余金	8,674,309円									
M 利益準備金（10%）	780,000円									
					615,144円					
O 従事分量配当 計	7,800,000円	110,000円	1,522,297円	3,323,191円	105,782円	211,236円	912,979円	-1,553円	681,271円	319,653円
P 次期繰越利益	94,309円									

損益計算書

商号 農事組合法人 竹町農業生産組合

令和 6 年 1 月 1 日から
令和 6 年 12 月 31 日まで

(単位:円)

科 目	金 額		
I 売 上 高 農 産 物 売 上	10,523,179	10,523,179	10,523,179
II 売 上 原 価 期 首 棚 卸 高 当 期 農 業 原 価 合 期 末 棚 卸 計 売 上 総 損 高 失		0 15,104,436 15,104,436 0	15,104,436 4,581,257
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 営 業 損 失		1,882,570	1,882,570 6,463,827
IV 営 業 外 収 益 受 取 配 利 当 息 雑 収 入		1,135 1,000 15,303,216	15,305,351
V 営 業 外 費 用 支 払 利 息		358	358
経 常 利 益 VI 特 別 利 益			8,841,166
VII 特 別 損 失			
税 引 前 当 期 純 利 益			8,841,166
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税		257,176	257,176
当 期 純 利 益			8,583,990
繰 越 利 益 剰 余 金		90,319	
繰 越 利 益 剰 余 金 期 末 残 高			8,674,309


剰余金処分案


(単位：円)


I	当期未処分利益		8,674,309
II	任意積立金取崩額		
	計		0
III	利益処分類		8,674,309
	従事分量配当金	7,800,000	
	利益準備金	780,000	
			8,580,000
IV	次期繰越利益		94,309


以上のとおり提出する。


商号 農事組合法人 竹町農業生産組合

代表理事 北川 誠次 


理事 奥田 徹 


理事 荒川 敏和 

理事 船橋 雄平 

理事 川橋 幸己 

監査の結果、貸借対照表、損益計算書および損失処理について、いずれも適法かつ正確であることを認める。

監事 荒川 雅男 

監事 小西 信弘 

議・第3号 竹町農業生産組合解散（案）について

1. 解散を提起するに至った経緯

前述いたしました通り、当法人は本年4月以降に解散することに致しました。当法人は平成27年（2015年）6月20日に設立総会を開催し、事業を開始しました。今年の6月でちょうど10年となります。この間、農業法人として事業を推進、麦作からスタートし、水稻、大豆、黒豆、ソバ、キャベツの栽培に取り組むと同時に、竹町の農地保全に努めてまいりました。

しかしながら、耕作者の高齢化に伴い実作業者が減り、農業法人として事業を継続することが困難になって参りました。創業当初からの人員、平均年齢、耕作面積、経常利益の推移を纏めてみますと以下の様になります。

年度	耕作者数	耕作者の平均年齢	経営面積	経常利益
第1期（2015年度）	17人	60.5歳	0a	30千円
第2期（2016年度）	17人	61.5歳	1,171a	1,193千円
第3期（2017年度）	16人	62.3歳	1,786a	4,097千円
第4期（2018年度）	15人	62.6歳	3,355a	11,629千円
第5期（2019年度）	15人	63.6歳	3,471a	9,100千円
第6期（2020年度）	12人	64.4歳	3,445a	12,600千円
第7期（2021年度）	10人	63.2歳	3,046a	8,585千円
第8期（2022年度）	9人	64.1歳	2,866a	7,995千円
第9期（2023年度）	9人	65.1歳	3,053a	9,823千円
第10期（2024年度）	7人	63.4歳	2,986a	8,841千円
第11期（2025年度）	(4人)	58.5歳	0a	—

法人設立時、耕作者は17名でスタートしましたが、高齢化により年を追うごとにメンバーが減り、今年度は7名、来年度も続けるとすると4名となってしまいます。

平均年齢は毎年高齢者が離農した結果、余り変わりませんが、ここまで人員が減りますと農業法人としての運営が成り立ちません。

他の農業法人でも同じような事が起こっていますが、幸い竹町の場合、町内の認定農家さんがこれらの農地の殆どを引き受けると申し出ていただいたので、法人を解散することにいたしました。今後は認定農家さんを中心に4名の皆さんで継続していただくこととなります。

2. 竹町農業生産組合解散スケジュールについて

農事組合法人を解散するに当たっては、国からの補助金を活用して購入した大型農機の償却が完了しないと補助金を返還しなければなりません。現在保有する農機が、7年という償却期間を過ぎているかどうかの判定を以下の様に行っています。

■解散要件の確認（補助金交付農機の償却年度とJAアグリマイティ償還計画）

1) 補助金交付農機の償却年限は7年で簿価ゼロとなる

- ・2018年初頭より補助金申請手続き開始、2月に交付確定。
並行して大型トラクターの機種選定、発注作業を行う。
- ・2018年3月04日 大型トラクター一式納品（安全祈願祭実施）
- ・2018年3月26日 融資主体型補助金を受領（2,736,000円）
- ・2018年3月27日 農地中間管理機構集積協力金振込（2,573,800円）
- ・2018年4月01日から7年後に補助金返還義務免除

- 2) JAアグリマイティ資金償還：金額2,500,000円（利息：9,212円）
- ・償還期間 2018年12月1日～2024年12月1日（計7回）
 - ・2024年12月2日に償還完了済み

※以上より、2025年（令和7年）4月1日以降解散ならば、補助金返還義務なし

■生産組合解散迄の手続き

◇解散スケジュール

	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
解散手続き		農政課・再生協議会調整	4月～10月 資産売却&剰余金精算	決算後解散 決算後結了 水稻精算金入金
生産組合		小麦	大豆・ソバ	
荒川雅男氏			小麦	大豆

- 1) 法人を完全に解散するまでに、解散と結了の二つの手順を踏む必要がある。
- 2) 解散は令和7年度の決算（12月末）から2ヶ月以内に総会を開き解散決議を行う。
- 3) 理事はこの時点で総辞職し、同時に解散登記を行う。
- 4) 資産の処分は令和7年度から始め、結了迄に現金化又は他団体への寄付をしておく。
- 5) 結了は令和6年度の米の精算金が入ってから、令和8年末までに行う。
（結了は令和8年以降になっても良いがこの場合は令和8年末と結了時に2回決算が必要）
- 6) 結了時に最終決算と総会を行い、確定申告を税務署に提出し、法務局で総会より2週間以内に結了登記を行う。（これによって法人番号は消滅）

※以上より法人の解散は令和8年2月初、結了は令和8年4月～12月を予定

法人の解散は以上のスケジュールで進めて参りますので、ご理解、ご協力のほど宜しくお願い致します。

尚、法人解散について今回は報告のみとし、解散決議は令和7年度総会で行います。

また、解散後の対応（地代改定、圃場設備の維持管理費の負担区分、玄米販売の窓口等）については、改良組合、農用地利用改善組合、土地改良の総会で方向付けを行います。

法人解散後の農業経営は前記4名の方が中心になると思いますが、農地は農業経営とともに、地域の生活環境や自然を守るための重要な資産でもあります。昨年、町内でも耕作放棄地が出てしまいましたが、既に荒れ放題の農地となっております。この面積が拡大すると我々の住環境を脅かす事にもなりかねません。町内では「自治会」や「しぜんを守る会」で草刈りやカバープラントの植栽、農道整備、排水路の補修、泥上げ等が行われていますが、これは農地を守るためだけでなく我々の生活環境をも守るための活動です。竹町の農村環境を末永く維持するために、今後ともご支援、ご協力を宜しくお願いします。

以上